

●山本和智 (1975~)

『ヴァーチャリティの平原』第2部 ii) Another Roaming Liquid

アンサンブルのための (2017~18)

2017年の夏、突如私の頭の中でそれぞれ編成の異なる10の作品が同時に鳴り始めた(のちに11作品となる)。編成は違えども、例えば様々なサイズの歯車が各々のギア比の下に回転しながらも、それが一つの大きな機関をなしているが如くこれら11の作品も全体として同じ引力に導かれているらしい。

しかし、こうした衝動は一体どこから来るのか――。

自身の内奥に潜める衝動を辿り、降りていったその《場》に対し私は『ヴァーチャリティの平原』と名を与え、そしてこの原野でしばらく遊ぶこととした。そうするうちにその年の末には第1部となる5作品(i)フルート、児童合唱と混声合唱のための『形象をもった序破急』、ii)管楽器群と打楽器のための『波動とアレグロ』、iii)チェロのための『軌道A』、iv)チェロと弦楽オーケストラのための『二重軌道』、v)25人の奏者のための『5つの五重奏の五重奏曲』が、演奏されることを前提とせぬままに完成した。

さて、この作品はその『ヴァーチャリティの平原』第2部の2楽章にあたり、また私が考案し2017年の秋に発表した電子楽器『ビデオロン』を含むアンサンブル作品として京都フィルハーモニー室内合奏団の委嘱により書かれた。

2014年に作曲した尺八とオーケストラのための“Roaming Liquid”の一部を拡張した音形と堆積、そして移ろう「水の相」を軸に作品は展開していく。それに伴いビデオロンは「水の音」並びにその「運動」を演奏する。

ビデオロニスト、佐藤洋嗣氏、ビデオロン開発とプログラミングにご尽力いただいた磯部英彬氏、さまざまな「水」の撮影にご協力を賜った入江充臣氏と音響編集・整音にお力添えいただいた井藤淳氏にこの場を借り厚く感謝致します。

[山本和智]

A-FI (Picc / Fl) / Ob / Cl (Bs-Cl) / Fg - Hr / Flugelhorn / Euphonium - Acoustic Guit / Videolon - Pf (Cel) - 2 Vn / Va / Vc / Cb

初演：2018年4月15日 京都コンサートホール
齋藤一郎(指揮)、佐藤洋嗣(ビデオロン)、松田 弦(ギター)
京都フィルハーモニー室内合奏団

【ビデオロンについて】

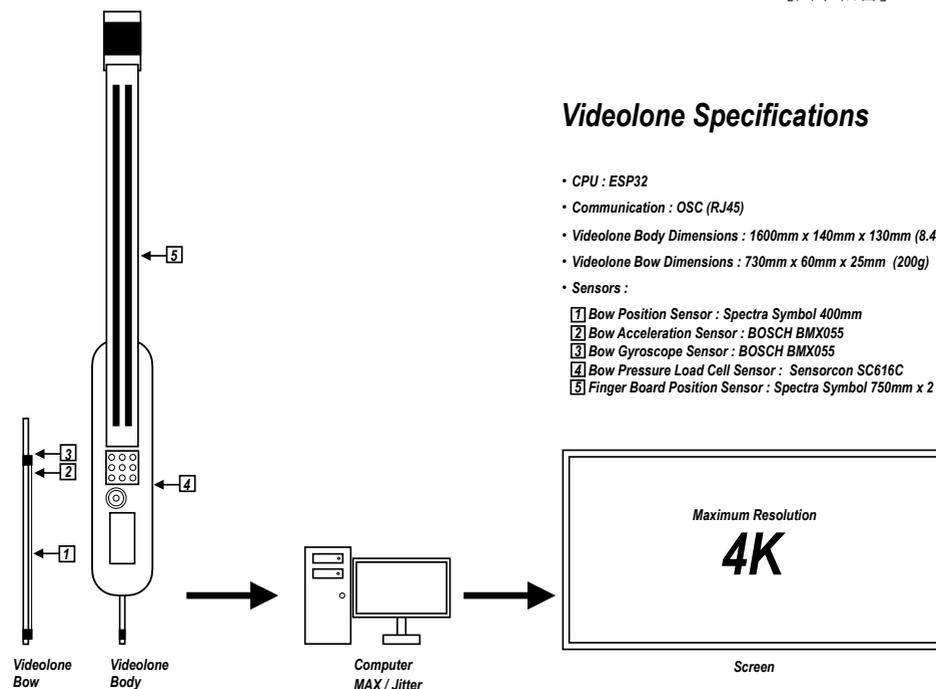
「ビデオロン Videolon」は2017年に作曲家、山本和智の発案によりメディア・アーティスト、磯部英彬によって製作された「擦電楽器 Bowed electronic instrument」である。擦弦楽器のように弓に張られたリボンセンサーをボディに擦ることにより音と映像をコントロール(演奏)することができ、また指板上で音程や各エフェクトを操作することによって、あらゆる演奏表現が可能となる。

2017年、山本和智作曲“Epigramma magnetica”の初演と共に発表されその翌年、愛知県芸術劇場にて初演された“Play-Replay-Meta-play”でさらなる反響を呼んだ。そのいずれも演奏は佐藤洋嗣によるものである。

今後も大きな可能性を秘めた楽器として日々アップグレードがなされている。

<http://www.isobe-instruments.com>

[山本和智]



* 各演奏情報(指板位置、弓位置、弓圧、弓角度及び加速度)を元にコンピュータでリアルタイム処理を行い映像を演奏する事が可能。
* 映像出力解像度は最大4Kサイズと同等の高精細映像を出力する事ができる。

●エリオット・カーター (1908~2012)

『ダイアログ』ピアノと室内オーケストラのための (2003)

『ダイアログ』ピアノと室内オーケストラのための (2003) はカーターが95歳の時の作品である。

カーターの後期にあたる最後の18年間は、彼の作曲人生の中で最も実りの多い時期であった。この期間に作曲した作品数は全体の3分の1にも及ぶ。

驚くべきことに、彼は1949年から1969年までの20年の間にわずか10曲しか作品を完成させていない。ハープシコードとピアノのための二重協奏曲 (1961)、オーケストラのための協奏曲 (1969)、弦楽四重奏第2番 (1959) などの傑作はこの時期の作品である。演奏家にとって恐ろしく複雑で演奏困難極まる中期の厚いテクスチャーの複雑なリズムとハーモニーが織りなす作品は、作曲家本人にとっても暗闇を手探りで這うようにして少しずつ前進していくような骨の折れる作業を必要としたのである。

それらの作品は高く評価され、その時点でカーターの音楽は頂点を極めたかのように思われたが、その後これらの作品を出発点としてカーターは新しい時代を切り開いていったのである。そしてそれまで、何千枚ものスケッチを書き溜め作曲したカーターのストイックで妥協を許さない姿を想像させる音楽は、85歳以降の後期に入ると、聴衆の心を虜にするような透明感とユーモアに溢れ、即興的なアイデアが光る音楽へと展開し、103歳で亡くなるまで作品を書き続けたのである。

『ダイアログ』はその後期真っ只中の作品である。15分程の単一章の中でオーケストラとピアノが対立しては融合し、時にはお互いをサポートしながら展開させていく対話 (ダイアログ) は、リズムックモジュレーションに誘導されるようにしてカーター特有の息の長い音楽の流れを作り、劇的なドラマを展開する。カーターが好きであったチャップリンを思わせるコミカルなイングリッシュホルンのソロに始まり、それを遮るようにして登場する大胆で表情豊かなピアノのエントランスはオーケストラの揺るぎないリズムに遮断される。その後ふた方は融合し、素早い

対話のキャッチボールを経て曲想はさらに展開していく。この透明で生き生きとして、そして楽しい音楽は、晩年のカーターの姿そのものなのだと思ふ。

[朝川万里]

Pf Solo - Fl (Picc) / Ob (E-Hrn) / Cl / Fg (C-Fg) - 2 Hrn / Trp / Trb - Strings (min. 2-2-2-2-2 ~ max. 12-10-8-6-4)

初演：2004年1月23日 サウスバンク・センター クイーン・エリザベスホール (イギリス)
オリヴァー・ナッセン (指揮)、ニコラス・ハッジス (ピアノ)
ロンドン・シンフォニエッタ

●山根明季子 (1982~)

『水玉コレクション No.4』

室内オーケストラのための (2009)

あなたは、とある部屋に入ってきました。

そこは辺り一面真っ白です。

隅の方に球体が現れました。

ヒトの顔かそれよりも少し大きいくらいの球体です。

光り、そして消えました。

そして別の位置にまた現れ、消えました。

近くまで歩いて行って丸い形の中をよく覗いてみると、

鏡のような質感で、

あなたの顔が歪んで見えます。

鏡のようなオブジェは、この白い部屋の中で、

あなただけではなく、

奇妙なことに色々なものを映し出しています。

……しばらく現れては消える球体を視て、

あなたは部屋を後にしました。

2009年作曲当時私は「音を視る」ことを掲げて音楽を書いています。音という現象は実際目に見えないのですが、音そのものの輪郭を辿って聴き手自身の感覚の内側で形や色、質感をすぐそばに感じ取ることを目指して音を構成していきます。『Dots Collection』と題するこの

作品はいずれも音一音(ひとかたまり)の在り方や質感を取り扱い、このNo.4では素材に近い目線で一つ一つ、今この場の肌感覚での音現象そのものを観察します。音の質感はごく繊細に空間、体調、気分に至るまで様々な要素によって揺れ動きます。次々現れては消える音の中に今日あなたは何を捉えるでしょうか。

[山根明季子]

Fl (Picc) / Ob / Cl / Fg - 2 Hrn / Trp / Trb - 2 Perc (I=Vib / Glock / Mokusho / Log-Drum / 3 Switzerland Cowbells / Thai-Gong II=Vib / Antique Cym / Flexatone / Wind Chime / Snare Drum / Ratchet / Whip / Ash Tray) - Hrp - Pf - Strings (min. 4-4-3-2-1 ~ max. 8-8-6-4-2)

初演：2009年6月13日 いずみホール(大阪)
飯森範親(指揮)、いずみシンフォニエッタ大阪

●一柳 慧 (1933~)

『コンチェルティーノ—Time Revival—』

弦楽オーケストラと2人の打楽器奏者のための (2018~19)

このコンチェルティーノは弦楽オーケストラと2人の打楽器奏者を対象に、神戸市室内管弦楽団のために書いたものです。作曲は2018年の後半から2019年の前半にかけて行い、ゆっくりした序奏部分と、速いテンポを中心にした後半の2部で構成しています。

曲の内容は、私の他の多くの作品に見られるように、現代の時代性や社会性の意識と、変転するその現実を反映しながら、近年、希薄化と抽象化が進んだ音楽に、具体的に感じられる時間の要素を、今日的視点から捉え直すことを意図しています。

[一柳 慧]

(世界初演時のプログラムより転載)

2 Perc (Timp / Xyl / Vib / Mar / Suspended Cym / Tam-Tam / Snare Drum / Bass Drum / Flexatone / Roto-Toms) - Strings

初演：2019年10月5日 神戸文化ホール(兵庫)
鈴木優人(指揮)、菅原 淳/高橋篤史(打楽器)
神戸市室内管弦楽団